

「チャグチャグ」という鈴の音を響かせながら、豪華な装束をまとった馬コが子どもたちを乗せて、ゆっくりゆっくりと歩いていく。6月の第2土曜日、滝沢村の蒼前神社を起点に、田植えを終えたばかりの田んぼのあぜ道や、街中を抜けて盛岡八幡宮まで行進は続く。東北に初夏を伝える風物詩として全国的に知られるチャグチャグ馬コ。昭和53年には国の無形民俗文化財に選定、平成8年には環境省の「残したい日本の音風景100選」にも選ばれている。

岩手県は、はるか奈良時代より馬の名産地として知られてきた。かつては軍馬として戦に出て活躍し、江戸時代に入ってからは農耕用として田畑を耕してきた。農耕馬の献身的な働きぶりに農民たちは強い愛情を抱き、居間と馬屋が同居した「南部曲り家」で家族同様に扱ってきた。

チャグチャグ馬コは、農民と農耕馬の深いつながりから生まれた行事だ。端午の節句に、水田の代かき等で疲れた馬の無病息災を祈願して蒼前詣していたことが起源といわれている。昭和初期、秩父宮の盛岡訪問をきっかけに、行列で歩いていく現在のかたちが始まったが、当時は装束をつけず裸馬か鞍馬だったという。その後、戦争により中断されたが昭

もりおかブランド物語



和と23年に復活し、質素だった装束も年を重ねるにつれて豪華さを増しているようだ。

この装束をまとった馬コを模した木製の郷土玩具は、50年以上前からこけしや木彫り職人の手で作られはじめ、今でも盛岡市内では北夕顔瀬町の五葉社や盛岡手づくり村のみちのく工房で作られている。取材時に工房の店主に聞くと、意外なことにチャグチャグ馬コをあしらった色とりどりのキーホルダーや携帯ストラップ等が可愛いマスコットとして若者に人気なのだそうだ。

また、見栄えのする大きめのチャグチャグ馬コの玩具は、市民が県外や海外の大切な知人への贈答品として購入することがとても多いという。それだけ盛岡の人々にとって「チャグチャグ」の鈴の音とともにのんびりと歩む様子は、郷土の誇る風景として、老若男女を問わず市民の心の中に強く刻まれているのだろう。

盛岡特産品ブランド認証委員会

〒020-0055 岩手県盛岡市繁字尾入野 64-102
代表電話 019-689-2201 ファックス 019-689-2212